

PRAEVIDENTIA DAILY (10月15日)

昨日までの世界：欧州発の世界景気減速懸念でドル反発

昨日はポンドが震源地だった。英 CPI が前年比+1.2%と前月および市場予想を大きく下回り、BoE のインフレ目標レンジ (1-3%) の下限に近付いたことから利上げ期待が後退、英中長期債利回りの低下と共にポンドが大幅下落、対ドルで 1.60 ドル台半ばから 1.58 ドル台へ下落した。続いて、ユーロ圏では鉱工業生産が前年比-1.9%、ドイツ ZEW 期待指数が-3.6 といずれも市場予想を大きく下回ったことから、ユーロ/ドルは 1.27 ドル台から 1.2640 ドルへ下落した。

ドル/円は、東京時間はドル買いが優勢となり 107 円台を回復していたが、欧州時間に英国とユーロ圏の経済指標が悪化すると世界経済減速懸念が高まり、米利上げも遅れるとの見方に繋がり米中長期債利回りの低下と共に再び 106 円台へ下落し、一時 106.65 円と前日の安値を下回った。その後は、対その他通貨でのドル堅調や、106 円台での押し目買い需要を反映してか、107 円台へ再び反発している。

豪ドル、NZ ドルやカナダドルは、欧州時間入りにかけて小幅反発する局面がみられたが、その後の欧州経済指標の悪化を眺め対米ドルで下落基調となり、米株価は小幅反発したにも拘らず軟調が続いた。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	-0.06	-0.07	-0.01	-0.10	-0.11	-0.01	+0.2	-2.4	-4.7	-4.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.7	+0.06	-0.01	-0.07	+0.05	-0.05	-0.11	+0.2	+0.2	-4.3	+0.03
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-1.1	+0.01	-0.06	-0.07	+0.07	-0.04	-0.11	+0.4	+0.2		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.6	+0.08	+0.02	-0.07	+0.14	+0.03	-0.11	+0.2	-0.3	-1.0	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.6	+0.06	-0.01	-0.07	+0.09	-0.01	-0.11	+0.2	-0.3	-1.0	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.9	-0.00	-0.07	-0.07	-0.04	-0.11	-0.06	+0.2	-4.7	-1.0	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。
(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：米 PPI も下振れリスク

きょうの注目通貨：USD/JPY ↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
中国 9 月 CPI 前年比	10 : 30	+2.0%	+1.7%	
英 8 月失業率	17 : 30	6.2%	6.1%	
英 8 月週平均賃金・3 か月前年比	17 : 30	+0.6%	+0.7%	
米 10 月 NY 連銀製造業景況指数	21 : 30	27.5	20.8	
米 9 月コア PPI 前年比	21 : 30	+1.8%	+1.8%	
米 9 月小売売上高・総合前月比	21 : 30	+0.6%	-0.1%	
同コア小売売上高		+0.4%	+0.3%	
世界乳製品取引 (GDT) オークション	21 : 00			結果は 24 : 00 前頃
米地区連銀報告 (ページブック)	3 : 00			

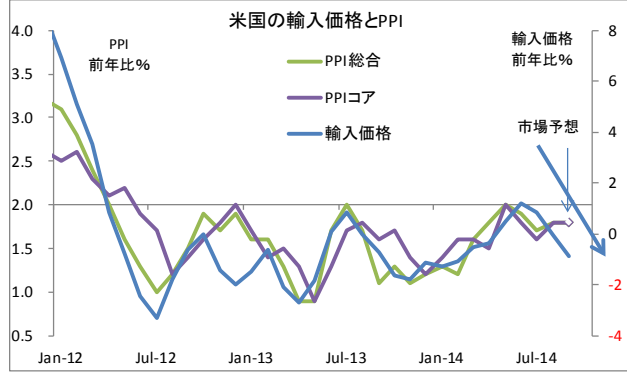
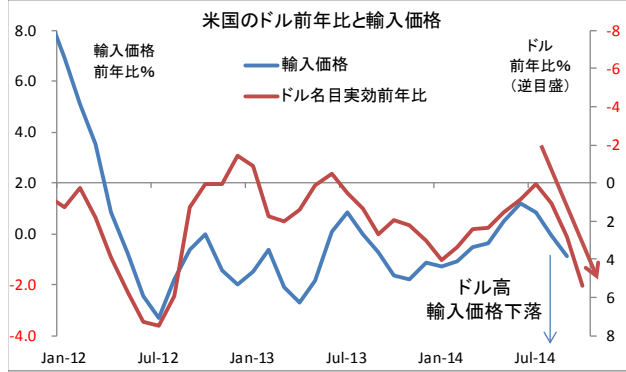
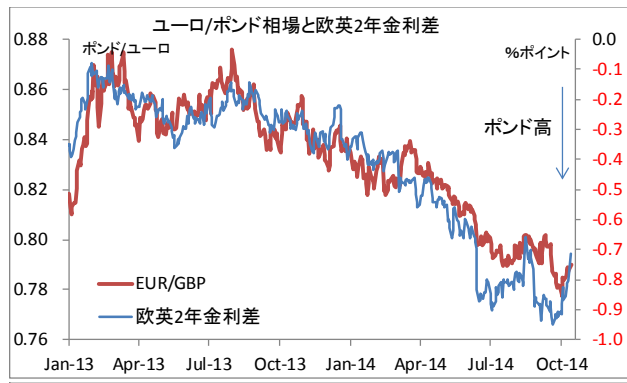
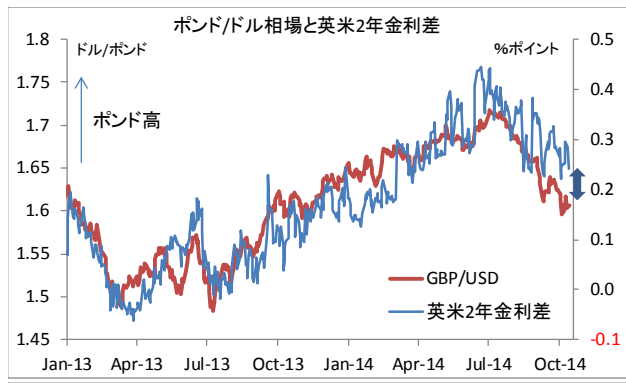
(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日も再びポンドが注目だ。昨日は CPI 前年比が+1.2%と BoE のインフレ目標レンジ (1-3%) の下限近くへ低下したことから、早期利上げ期待の後退から英中長期債利回りの低下と共にポンドは下落、対ドルで再び 1.60

ドル割れとなった。本日発表の失業率は 6.1%への更なる低下が予想され、BoE が特に今年 8 月以降注目している週平均賃金の伸び率も小幅ながら持ち直しが予想されているが、これらさえも予想比悪化するようだとポンドは目も当てられない状況となりそうだ。また最近の文脈では、(米国と並んで数少ない好況である) 英景気の悪化は世界景気減速懸念にも繋がり、株安やドル/円の下押し要因ともなりそうだ。一方、市場予想通りかある程度上回っても、ポンドの持続的回復に繋がるかは不透明だ。英米、および欧英 2 年金利差との関係を見ると(下図を参照)、ユーロ/ポンドは概ね金利差通りに動いている一方、ポンド/ドルは金利差縮小以上にポンド安ドル高が進んでおり、ポンド持ち直しの可能性を示唆しているが、ギャップを埋めるには英国サイドの良好な経済指標により英金利が米国対比で明確に上昇する必要があると見られる。

ドル/円関連では、NY 連銀製造業景況指数、コア PPI、小売売上高そして米地区連銀報告が予定されている。米株価の下落が一服感を示している中で、米経済の牽引役である個人消費を示す小売売上高が、賃金が伸び悩む中でも堅調を続ける場合には、賃金上昇率の低さをあまり気にする必要がないという認識に繋がり、ドル買い材料になるだろう。他方、コア PPI はコア CPI やコア PCE デフレーターなどの Fed が重視しているインフレ指標と連動性が高いため先行指標として重要だが、足許はドル高の影響で輸入価格が低下してきており、PPI も横ばいの市場予想を下回るリスクがあり、ドル売りリスクとして注意すべきだ(下図を参照)。NY 連銀製造業景況指数も前月の大幅改善からの悪化が予想されており、ドルにとって悪材料だ。

地区連銀報告も、FRB 高官が世界景気減速の米国への悪影響を指摘している中、景気判断が下振れる場合のドル売りが意識される。前回 9 月 3 日分では 12 地区連銀のうち、6 連銀が緩やか(moderate)、4 連銀が緩慢(modest)、「緩やか」より悪いとされる)、ボストンが改善(improving)、リッチモンドが更に回復(further strengthening)、と回答しているため、この構成がどちらに振れるかが注目だ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者(投資助言・代理業) 関東財務局長(金商) 第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641